

自主防災組織 避難所設営研修レポート

1. 目的・事業概要

糸魚川市では、令和7年度に指定避難所に防災備蓄品を配備。

地域住民とともに平時の防災活動に活用し、災害に備える意識の醸成と多様な主体による避難所設営運営の取組みを推進するため、市内自主防災組織等へ避難所設営運営訓練及び避難所体験、防災備蓄品の使用方法を説明する研修を実施。

研修は、市内防災士3名から講師としてご協力をいただき、市内各地で令和7年11月から令和8年2月にかけて白嶺高校を含む11会場で開催し、延べ215名が参加しました。

	日程	地区／団体名	開催場所	参加人数
1	11月14日(金)	白嶺高校	白嶺高校	13人
2	11月30日(日)	蓮台寺区、京ヶ峰区、 寺町区、押上区	糸魚川東小学校	27人
3	12月6日(土)	仙納区	仙納集落開発センター	12人
4	12月7日(日)	根知振興協議会	根知公民館	39人
5	1月17日(土)	下早川自治振興協議会	下早川地区公民館	23人
6	1月18日(日)	木浦地区連絡協議会	木浦地区公民館	24人
7	1月31日(土)	青海地区 黒姫の和	青海生涯学習センター	11人
8	2月1日(日)	中能生地区	中能生地区公民館	18人
9	2月17日(火)	東北電力ネットワーク(株)	東北電力ネットワーク(株)	13人
10	2月22日(日)	能生小泊地区	小泊地区公民館	11人
11	2月22日(日)	中央区	中央区会館	24人
			合計	215人

2. 研修内容



本研修では、災害時の避難所の開設と運営を想定し、防災士による座学と体験を組み合わせた実践的なプログラムを実施しました。

- ・避難所運営の基本（優先順位・レイアウト・受付設営）
- ・簡易トイレの設営と衛生管理
- ・簡易ベッド、パーティション、要配慮者テントの設置
- ・地域ごとの課題整理と意見交換

3. 研修の様子



前半は座学で近年の災害での避難所の状況や国の避難所運営ガイドラインの概要、避難所開設の基礎を学び、後半は簡易ベッドやトイレの設営を体験。

「知っている」と「できる」の違いを実感する声が多く上がりました。

最後は地区ごとに冬の防寒や停電対策を意見交換し、来年度に向けた具体的な案が多数出されるなど、自主防災組織の役員層を中心に実務的な防災意識が高まる機会となりました。

簡易トイレの設営と使用方法の確認



避難所における衛生管理などのトイレ問題に欠かせない「簡易トイレ」の設営を体験。

実際に組み立てることで、便座の安定感や処理袋のセット方法など、説明書だけでは分からない細かなコツを確認。

「実際に体験することで、暗い場所や緊急時でも迷わず設置できそう」と、実技の重要性を実感する声が多く上がりました。

避難スペースの設営体験



避難所でのプライバシーの保持に必要な「パーティション」と休息を支える「簡易ベッド」の設営に挑戦しました。組み立てを通して、段ボールベッドの強度やテントの広さを体感。「床の冷たさが伝わらない」「想像以上に落ち着く」といった発見があり、避難生活の質を左右する備品の重要性を肌で感じる貴重な機会となりました。

4. 参加状況

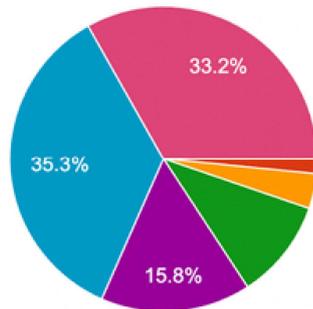
多様な主体による避難所開設運営を推進するため、市内各地区および学校・企業を対象に実施し、幅広い年代が参加しました。特に地域役員層を中心に、実務的な防災力向上に向けた関心の高さが見られました。

参加者の年代・属性

年代

190 件の回答

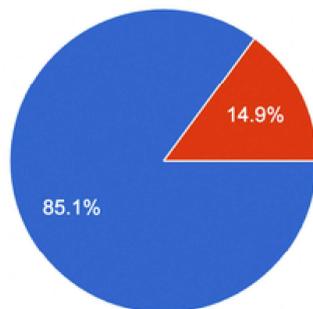
20代:3名
30代:7名
40代:20名
50代:30名
60代:67名
70代:63名



60～70代以上が中心ですが、20～50代の参加も見られました。多世代で地域の防災に関心を持つ重要性が示されました。

性別

181 件の回答

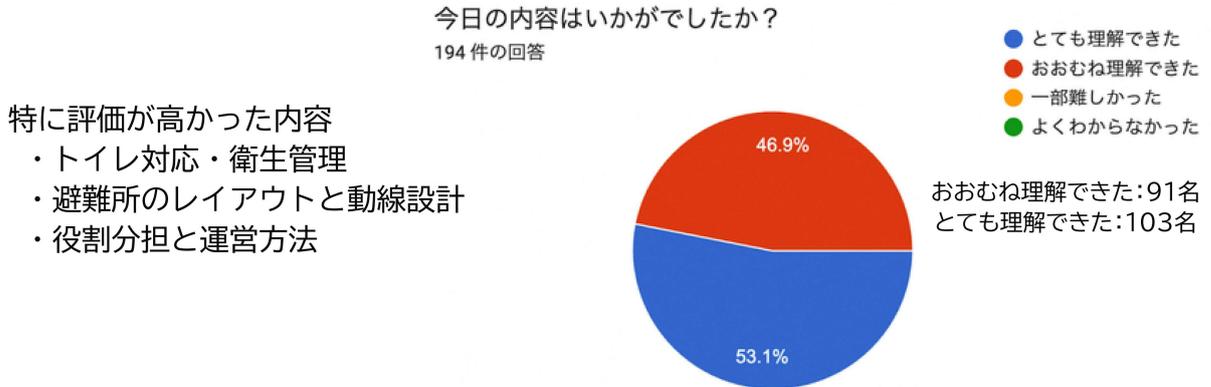


女性:27名
男性:154名

役員層が中心のため男性が85%以上でした。日常の備えを強化するため、今後は女性の積極的な参画も期待されます。

5. アンケート結果

アンケートでは、「とても理解できた」「実際に役立つ」との回答が大半を占め、講座内容の有効性が確認されました。



6. 参加者の主な声

実務的な訓練を通じて、防災意識が大きく高まる結果となりました。参加者からは、備蓄品に触れることで避難生活の具体像が見えたという声や、地域での継続を望む意見が多く寄せられました。

- ・実物を使った体験で理解しやすかった
- ・トイレの重要性を再認識した
- ・地域でも継続して実施してほしい
- ・家でも備蓄を進めたい

7. 研修の成果と課題

本研修を通じて、地域主体による避難所運営の重要性と課題が明らかになりました。実物の防災備蓄品を用いた体験型研修により、特に「衛生管理・トイレ対応」の重要性に対する理解が大きく高まり、災害時の生活環境維持に向けた具体的な知識と行動意識の醸成につながりました。また、避難所運営の役割分担やレイアウト設計など、地域主体で避難所を運営するための実践的な視点が共有され、地域防災力の底上げに寄与しました。以上の点を踏まえ、今後は以下の取組の推進が考えられます。

地域ごとの課題を共有する参加者

- ・地区単位での継続的な研修の実施
- ・在宅避難や備蓄などテーマ別研修の充実
- ・避難所運営マニュアル・ルールづくりの支援
- ・学校・企業と連携した地域防災の強化



本研修は、体験を交えた講義・演習を通じて、防災資機材の使用方法和避難所開設運営などの防災に関する理解を深めました。研修で得られた知見や意見は、今後の取組の参考として活用します。